シェルスクリプティング 条件

test (I) コマンド

[シェルスクリプティング]

- ・ 真偽の判定
- ・ ほとんどのシステムでは、test コマンドと [コマンドは同じもの

引数に指定されたファイルが存在するか判定

```
#!/bin/sh
if test -f "$1"
then
  echo "$1 found."
fi

if [ -f "$1" ]; then
  echo "$1 found."
fi
```

- ・ [はコマンドなので、条件との間には空白が必要
- ・ if と同じ行に then を記述する場合には、;(セミコロン)が必要
- ・ test コマンドが判定できる条件は、文字列比較、算術比較、ファイルの判定

文字列比較

文字列比較	結果
string1 = string2	文字列が等しければ真
string1 != string2	文字列が等しくなければ真
-n string	文字列が null でなければ真
-z string	文字列が null(空文字)であれば真

算術比較

算術比較	結果
exp1 -eq exp2	2つの式が等しければ真
exp1 -ne exp2	2つの式が等しくなければ真
exp1 -gt exp2	exp1 が exp2 より大きければ真 >
exp1 -ge exp2	exp1 が exp2 より大きい、等しければ真 >=
exp1 -lt exp2	exp1 が exp2 より小さければ真 <
exp1 -le exp2	exp1 が exp2 より小さい、等しければ真 <=
!exp	式の真偽を反転

ファイルの判定

ファイルの判定	結果
---------	----

-d file	ディレクトリなら真
-e file	存在すれば真
-f file	通常のファイルなら真
-g file	set-group-id ビットがセットされていれば真
-r file	読み取り可能なら真
-s file	サイズが 0 でなければ真
-u file	set-user-id ビットがセットされていれば真
-w file	書き込み可能なら真
-x file	実行可能なら真

引数に指定されたファイルの判定

```
#!/bin/sh
if [ -f "$1" ];then
  echo "file $1 exists."
fi

if [ -d "$1" ];then
  echo "$1 is directory."
else
  echo "$1 is not a directory."

  if [ -r "$1" ];then
    echo "readable."
  fi
  if [ -w "$1" ];then
    echo "writable."
  fi
  if [ -x "$1" ];then
    echo "executable."
  fi
fi
```

上記はこの本からの覚書。

非常にわかりやすく説明されている良書